全国Ｒ・Ｊグレード部会情報誌

かしめ

2012年　1月15日
4号

発行：全国Ｒ・Ｊグレード部会連絡会　　発行責任者：松枝　建次
事務局　東京鉄構工業協同組合
住所：東京都中央区八丁堀３－９－５
電話：03（5566）1595　FAX:03(5566)1597　E-mail:jimukyoku@tsfa.jp

1．全構協会長と懇談
2．あれから8年（三重県）
3．編集後記

米森全構協会長と懇談

１２月１２日午後、全国Ｒ・Ｊグレード連絡協議会役員と全構協会長と初めての懇談を、東京の全構協事務所で行われました。

この懇談に部会からは松枝建次会長（大阪府）、三田　孝副会長（京都）、土屋真一副会長（山梨）、川島幸次幹事（千葉）、水野勝也（静岡）、事務局の加藤哲夫の６名が参加し、全構協からは米森昭夫会長、大森繁専務理事が参加しました。

全国Ｒ・Ｊ部会幹事会では、かねてから全構協のトップと懇談を要望し、全国Ｒ・Ｊグレード部会の社会的地位の向上や協議会の全国展開実現の為に全構協の力添えを期待してきました。

Ｒ・Ｊグレード会員は全構協構成員の約１／３を占めておりグレード別の組織化はＲ・Ｊグレード会員の社会的地位の向上とともに全構協の組織の活性化の為にも大いに役立つことであると考えます。

写真左から
松枝会長
川島幹事
土屋副会長

写真右から　米森全構協会長　大森専務理事

『かしめ』は全国Ｒ・Ｊグレード連絡協議会の情報誌です。会員と全国の組合事務局にメール発信しています。記事の投稿をお待ちしています。事務局は東京鉄構工業協同組合です。

会の活動目標は適正なグレード指定の実現

懇談は冒頭松枝会長より、情報誌「かしめ」のバックナンバーを米森会長に手渡し、全国R・Jグレード部会の活動について説明を行いました。活動の主な目標は適切なグレード指定の実現です。これまでも地元の行政や設計事務所の団体等に対し要請を行ってきたが、十分ではありません。全構協からも国交省等行政に対して是非アピールをしていただきたいと要請しました。

米森会長は「全構協の会長になってからこれまで、全国の各地の組合を積極的に回った。その中で言ってきたことは、まず組織で行うこと、個人で行うこと、組合で行うこと、地元の支部会ですべきこと、全構協ですべきこと分けて考えてほしいと言ってきた。今行政に働きかけてみてもなかなか話を聞いてもらえない。地元の組合が地元の行政に行ってもっとPRしないと実現は難かしい話だと思う。自分たちが努力しないとだめだ。耐震補強の物件にR・Jグレードを使うところが出てきているが、これは地元の組合が頑張っているからだ。」と語りました。

松枝会長は「関西でもこれまで構造設計協会に対して申し入れ等を行ってきた。その結果少だが変わってきている。我々の活動は今後もどんどん行っていくので、全構協からも働きかけをしてほしい。」と要請しました。

米森会長は「全構協として規模に合ったグレードを使ってほしいと言うことは、どんどん言っていくが特定のグレードを使ってほしいと言うことは、全グレードを束ねる全構協の組織上無理がある。」と語りR・Jグレード部会の他力本願ではなく自主的な活動に期待しました。

写真左より　水野幹事　三田副会長　松枝会長

三田副会長から「情報の発信が不十分では？」の問いに対して、米森会長は「全構協は各県の組合、支部、全構協との関係の中で、情報の伝達の迅速化に力を割いてきた。現在では、役員会で決まったことが速やかに各支部会に伝達され、一週間後には議事録が作成され各組合に伝わるようになってきている。」と語りました。

また水野幹事からは「R・Jのメンバーを強靭なものにしていく為の教育強化や勉強会を旺盛に行っている。また、地元でR・Jとして社会的地位をもっと上げたいと言うことで行動しているがなかなか聞いてもらえない。会長から、各支部長や理事長に対してR・Jの会員の声に耳をもっと傾ける様ひとこと言っていただきたい。」と要請。

米森会長は「全構協はR・Jのグレードのことも含め業界全体のことを考え業界の地位向上や、鋼材のトラサビリティの問題、後継者教育等組織全体として取り組む問題は十分に行ってきている。今後も全体のことは我々もがんばって行くので個々のことはR・J部会として努力してほしい。」と語り懇談を締めました。

あれから 8 年

三重県 RJ グレード部会　　会長　高橋久武

手元に一冊の記念誌があります。
平成 15 年に行われた三重県鐵構工業協同組合 30 周年の栞です。
題名は組合創立三十周年の栞　～あれから十年～　と副題が付いています。

　本文を少し引用してみます。
『あれから 10 年（黄粱一炊の夢）　*注 1

　昭和 48 年頃、各地に県単位の組合が　又、全国組織の全構連が結成されたのは、
ファブが漸く自己防衛に目覚めたからであった。
爾来 30 年たった中で、ただの一度だけ夢を見せてもらったものの、
万年赤字の宿命を背負って今日を迎えた。

　この 10 年間はバブルの夢醒め、先の見えない道を模索している。
ー会員数は史上最低ー　平成 14 年度末　84 社
ーMグレードの倒産目立つー　倒産で退会と云う中で M グレードが半数以上を占める
ー需要はバブル期の半分にー　バブル期平成 2 年 28 万トン　平成 13 年 14 万トンと 50%
ーオイルショック時代の単価 10 万円ー　単価は絶頂の 30 万円台から 10 万円台と惨落

　まとめとして

『待てば海路の日和あり”主義はもう通用しない。守りから攻めへ、鉄骨工事業の下請根性
　からの脱皮。鉄骨工事業の新設、独立が来る 10 年の課題である』

　平成 15 年から 8 年たった今記念誌の中の嘆きからどれだけ
果たして我々の業界は脱却できたかと考えるに、悲しいかな一つも変わっていない・・・
と言うのが正直なところでないだろうか。

　当時以上に現在の方が何もかも悪化していると言えるのではないでしょうか？
三重県の会員数　65 社（平成 23 年 4 月 1 日）。
需要は平成 22 年度で 3 万トン（組合員の申告より・・・実勢はもっと多いとは思う？）
倒産件数は今現在は特に多いわけではないが, どこもかしこもいつ何時、
倒産してもおかしくない現状と言えるのではないか。

　単価が依然 10 万円台前半では倒産しない方が不思議であって、
このような単価で従業員の福利厚生など望むべくもない。

単価が上がらないので外国人研修生を受け入れる？

外国人に技術を教えることは先進国としての責務かもしれないが、
我々の業界だけではないが技術立国としての日本の将来を経営者は
どう考えているのか?

現状を打破するには

今こそ企業、組合、全構協が連携を密に進むべき！

日本の若者に技術を教えていかなくては近い将来、今、後進国といわれる国々にとって変られるのは明らかである。技術なくして日本は成り立たない。
次代を担う若者に夢を与えることが我々世代の責任である。
定着率が悪いからと言って教える事をあきらめずに根気よく教えていくこと、
また若者にやる気を起こさす様に福利厚生に力を入れること、
皆がてんでバラバラな作業服で、ねじり鉢巻きだったり、野球帽をかぶったり、
そんな工場でできる製品が高く売れますか?　若者が覗いて魅力を感じますか?
工場内でのヘルメットの着用、制服の支給による企業イメージの向上も重要である。
そういった経費をかけることで、引いては安価な受注も少なくなるのではないでしょうか？
適正価格で受注することで企業の体質を強くして、この業界がこのアリ地獄から抜け出して、分離発注を勝ち取る新しい鉄骨工事業の構築を目指して、
各企業、組合、全構協３者が連携を今以上に密にして進むべき時だと考えます。

注１：キビが炊きあがるまでの一瞬の時間

尾崎咢堂記念館

この記念館は平成 15 年 11 月竣工　　2 階建て　延べ面積　７７１㎡
鉄骨加工　（有）タカハシ・エム・エフ・ジー　三重県Ｒグレード

編集後記

平成 23 年の総会は忘れもしない 3.11 東日本大震災その日の開催でした。大阪第一ホテル 6 階の会場　は、大きく揺れ、ただ事ではないと感じましたが、総会を中断するわけにはいかず、司会の三田副会長がリアルタイムで情報を参加者に伝えながら淡々と総会を続け、無事終了することができました。有事の際のリアルタイムの正確な情報伝達は参加者の平静さを保つためにも大切なものです。

さて、米森全構協会長との懇談は短い時間でしたが、意義あるものでした。全構協組織の意思決定が末端の会員に十分に伝わっていないと言われています。米森会長はそれを十分認識され、就任後組織の血液の流れを速め、末端の毛細血管まで伝わるよう全国各支部を回られて改革を実践されています。そのことは十分評価しますが、しかしＲ・Ｊの会員の声が全構協の役員に届きにくくなっている事は確かです。そのためにも全国横断的なグレード別組織が必要ではないでしょうか。私たちはオフィシャルな組織ではありませんが、Ｒ・Ｊの社会的地位の向上の為に今後も活動していきます。